



科学者が見てきた知床の今と昔

— 知床世界自然遺産登録20周年を前に —

3 / 2023. 15 (水) 13:30-16:30

<オンライン同時配信>



LIVE



◀視聴はこちら

<https://youtube.com/live/0XT4BMLBY>

北海道立道民活動センター かでのる2・7

大会議室(4階) 札幌市中央区北2条西7丁目道民活動センタービル

来場をご希望の方は事前申込みが必要です

<申込先> y_amagai@shiretoko.or.jp (知床財団 担当: 雨谷)

<締切> 2023年3月13日(月) 17時まで

知床が2005年に世界自然遺産として登録される前から、科学的な立場で知床を見守ってきた知床世界自然遺産地域科学委員会。シンポジウムでは、科学委員会が2012~2021年度までの10年間で得られたデータをもとに実施した知床世界自然遺産の健康診断となる総合評価の結果について報告するほか、知床世界自然遺産に関する最新の研究成果や先進的な取り組みを紹介します。

また、パネルディスカッションでは、科学者の立場からこれまでの成果や課題を振り返り、世界自然遺産としての知床の将来像や今後の展望、科学者が果たすべき役割などについて議論します。

プログラム

1 データで見る知床の今と昔

13:30~15:10

報告1 環境省

データで見る知床の世界自然遺産としての価値の現状

報告2 計4講演

知床における最新の研究成果、先進的な取り組み

- ① 環境DNAを活用した水圏生態系の新たなモニタリングの可能性とは?
荒木 仁志 (北海道大学大学院農学研究院)
- ② 知床周辺の海氷は減っていくのか? 海洋生態系への影響とは?
山村 織生 (北海道大学大学院水産科学研究院)
- ③ 知床半島のヒグマの生息数は? 人里への大量出没の原因とは?
下鶴 倫人 (北海道大学大学院獣医学研究院)
- ④ 世界自然遺産の適正な観光利用のための地域関係者のかかわり
敷田 麻実 (北陸先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科)

2 パネルディスカッション 科学者が見てきた知床の今と昔 — 知床世界自然遺産登録20周年を前に — 15:20~16:30

コーディネーター:

中村 太士 (科学委員会委員長、河川工作物AP座長)

パネリスト:

石川 幸男 (エゾシカWG座長)

佐藤 喜和 (ヒグマWG座長)

敷田 麻実 (適正利用・エコツーリズムWG座長)

山村 織生 (海域WG座長)

※「WG」とは科学委員会のもとに設置されたワーキンググループ、
「AP」とは同じくアドバイザー会議のこと。

<主 催> 知床世界自然遺産地域科学委員会
<事務局> 環境省釧路自然環境事務所、林野庁北海道森林管理局、北海道
<注意事項>
※会場ではマスク着用にご協力ください。
※新型コロナウイルス感染拡大状況等に応じて、オンライン配信のみに変更する場合があります。

知床の世界自然遺産としての価値

- ・ 知床は「生態系」と「生物多様性」の2つのクライテリア(登録基準)に該当するとして、2005年に世界自然遺産として登録された。

▶ 生態系

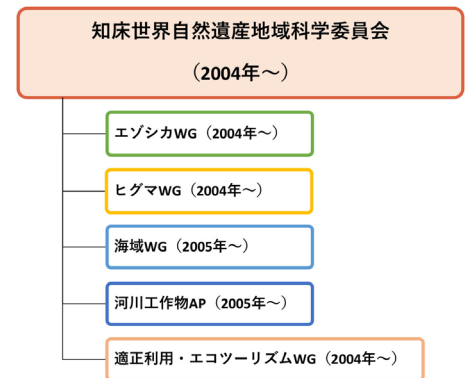
北半球で最も低緯度に位置する季節海水域であり、季節海水の形成による影響を大きく受け、特異な生態系の生産性が見られるとともに、海洋生態系と陸上生態系の相互関係の顕著な見本である。

▶ 生物多様性

知床は海洋性及び陸上性の多くの種にとって特に重要であり、これらの中にはシマフクロウ、シレットコスミレなど多くの希少種を含んでいる。また、多くのサケ科魚類、トドや多くの鯨類を含む海棲哺乳類、渡り鳥等にとって世界的に重要な地域である。

知床世界自然遺産地域科学委員会

- ・ 科学的なデータに基づき、海域と陸域の統合的な管理を行うために必要な科学的助言を得るために設置された、学識経験者及び行政機関で構成される会議。
- ・ 科学委員会の下には、4つ(エゾシカ、ヒグマ、海域、適正利用・エコツーリズム)のワーキンググループ(WG)と、1つ(河川工作物)のアドバイザー会議(AP)が設置されている。



世界遺産委員会

- ・ 世界遺産一覧表等の作成や登録された世界遺産の保全状況の審査、保護のための国際的援助等を行うユネスコの組織。締約国(2022年5月現在、194カ国)の中から選出された21カ国で構成される。

IUCN(国際自然保護連合)

- ・ 国家、政府、NGOなどで構成される国際的な自然保護団体。世界遺産条約に基づき、世界遺産委員会に対し助言を行う諮問機関としての役割を担っている。

知床世界自然遺産管理計画

- ・ 遺産地域を将来にわたって適正に保全管理していくことを目的として、関連制度や各種事業の推進等に関する基本的な方針等を明らかにした計画。

長期モニタリング計画

- ・ 科学的知見に基づく順応的な管理を進めていくため、2012年2月に第1期長期モニタリング計画を策定し、長期的なモニタリングを実施している。2022年に第1期の総合評価を実施し、知床の遺産としての価値は良好に保たれていることを確認した。2022年度からは第2期の調査期間が開始されている。

知床データセンター

- ・ 知床の経緯やガイドブック・パンフレットなどの一般の方向け資料、報告書や研究成果などの専門性の高いデータを提供するサイト。

